

☆☆ **新型コロナウイルス感染症ニュース** 第 50 号 2021.1.12 ☆☆

年末年始における仙台市内急患センター等の受診状況について

仙台市健康福祉局からの報告によれば、令和 2 年 12 月 29 日から令和 3 年 1 月 3 日までの期間に仙台市急患センター、北部急患診療所、夜間休日こども急病診療所を受診した患者さんの数は、昨年と比較していずれも減少傾向となりました。新型コロナ感染症への警戒の影響とみられます。

市内の主な基幹病院の救命救急センターについても、いずれも昨年を下回る受診者数となり、発熱患者の急増による大きな混乱やトラブルは発生しなかったと思われま

(文責;地域医療部救急担当 枝 幸基)

新型コロナウイルス感染症患者に対する病院側の受入れ体制について

2021 年が明けても、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID）のいわゆる第 3 波は収束の目途が立っていません。2020 年 4 月の第 1 波の時と比べて、宮城県でも COVID 患者は著明に増加しており、入院が必要な患者をいかに収容して医療を行うか、病院側としてもその対応に苦慮しています。ここでは、病院側から見た COVID 患者の受入れ態勢の現況について簡単に報告します。

COVID 患者が発生した当初は、県内の感染症指定病院に加えて病床数の多いいくつかの病院が協力するかたちで患者受入れを行ってきました。第 1 波を受けた緊急事態宣言発令の後、COVID 患者の減少に伴い、協力病院は COVID 患者受入れを一時中止し、各病院も平常業務を取り戻したかに見えました。ただし、いわゆる患者の「受診控え」が顕在化し、いずれの病院も患者数の減少が大打撃となって経営の悪化は避けられませんでした。

夏の散発的な第 2 波の際は大きな問題は起こらなかったものの、秋になって全国的に COVID 患者が増加に転じはじめ、各地でクラスターが発生して瞬く間に第 3 波に突入したのでした。

宮城県でもクラスターが複数個所で発生し、患者数が一気に増加したため、病院側の受入れ態勢を再度見直す必要に迫られました。第 2 波に比べて重傷者の発生が多くなったこともあり、重症者用の病床数も増やす必要がありました。2021 年 1 月の時点で、県内の 20 病院（重傷者対応は一部のみ）が COVID 病床を用意して数名ずつ患者を受け入れています。しかし、対応可能な病床数が限られていることから、PCR 検査で陽性になっても、直ちに入院に至らずに自宅待機で入院を待っている方も少なくありません。また、無症状あるいは症状の軽い患者の場合は宿泊施設に収容して経過を診る対策もとられ、現時点で 100 名以上の方が収容されています。

県や市からは各病院に向けて COVID 受入れ病床数を増やすよう要請が出ていますが、病院側からみると対応はそう簡単ではありません。増床のためには、病室を陰圧にするために機器を整備しなくてはならず、ゾーニングや患者とスタッフの動線も考えなくてはなりません。そして何より看護師の動員が問題となります。第 3 波では複数の老健施設でクラスターが発生し、認知度・介護度の高い患者が多くなったため、入院後の看護体制維持に通常よりも多くのスタッフを要しています。場合によっては他病棟の看護師を削って応援に回す必要がでてきました。

更にメンタルの管理も問題になります。感染防護のフル装備での看護業務は体力的に容易ではなく、自ら感染するのではないかという精神的なプレッシャーも抱えています。何より「いつまで続くのか」というゴール

の见えない毎日の激務ですので、燃え尽きて離職するスタッフも出てきています。そのため適宜カウンセリングや病棟配置換えで対応しているのが現状です。

一方、最近の報道でも話題になっているように、宿泊施設に収容された或いは自宅待機になっている COVID 患者が急変する事例がかなり多いことが分かってきました。その点も踏まえて、宮城県では東北大学の医師を招聘して「COVID 医療調整本部」を設置し、保健所と協働して患者の入院調整を円滑に進める対策を始めています。今後は仙台市医師会としても調整本部に協力する予定です。

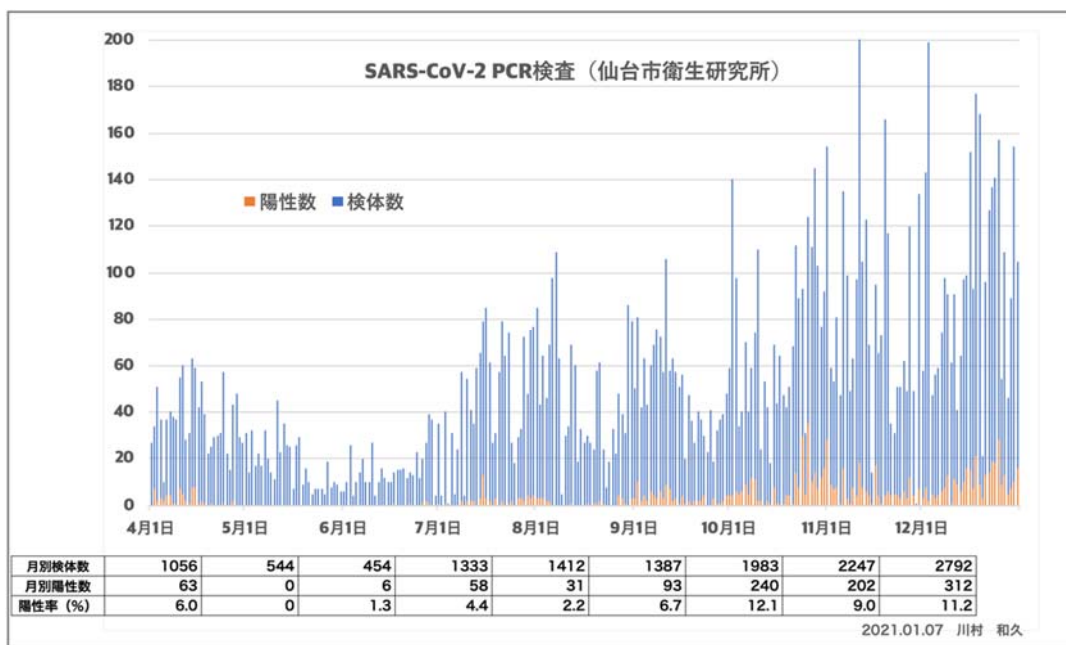
以上、簡単に COVID に対する病院側の現況をまとめてみました。今後は高齢者と医療者を優先に日本でもワクチン接種が始まります。ワクチンが功を奏して COVID の重症化阻止、あわよくば COVID 収束に繋がることを祈念するのみです。

(文責;国立病院機構仙台医療センター/勤務医部 島村弘宗)

SARS-CoV-2 PCR 検査データ (仙台市衛生研究所) (2021. 1. 7)

2 度目の緊急事態宣言が発出され、宮城県でも過去最高の感染者数となり、新型コロナウイルス感染症は止まるところを知りません。流行の拡大に際し、仙台市衛生研究所のデータをまとめてみました。グラフには昨年 4 月以降 12 月までの日毎の検査数と陽性数。下部の表には月別の検査数、陽性数、さらに陽性率を示しました。ちなみに 1 月 1 日から 7 日までの 1 週間では、それぞれ 521 件、84 件、16.1%でした。検査数の増加は当然ですが、陽性率の増加は今後の拡大の指標になります。

今後も更新予定ですので、診療や患者さんの指導にお役立ていただければ幸いです。



(文責;地域医療部 川村和久)

ニュース部より (50号担当 松森保彦)

緊急事態宣言が再出され、新型コロナウイルス対策も新たな局面を迎えております。引き続き会員の皆様には有益な情報をご紹介しますので、本年もよろしくお願いいたします。

仙台市医師会へのご意見・ご質問等は FAX、メールでお願いいたします。

FAX : 022-267-5193

メール : sen-ishi@sendai.miyagi.med.or.jp